科目名	高齢者看護学特論Ⅰ	分野・必選別・単位数	専門科目（高齢者看護学）	選択必修	2単位

担当教員	◎教授　上野公子						
課程	博士後期	配当年次	1年	配当学期	前期	授業方法	講義

授業の概要	高齢者を取り巻く社会的および健康課題（高齢者の健康を脅かす様々な事象や高齢者の発達を妨げる様々な事象）を取り上げ、広く先行研究のクリティークなどから掘り下げ、高齢者看護学の発展や向上のための研究の意義について考察する。
授業の到達目標	①高齢者の社会的および健康課題となっている事象について説明できる。 ②高齢者看護学領域研究の動向および研究の意義について説明できる。

授業計画

回数	担当者	行動目標
1	上野　公子　教　授	講義の進め方を知って次回の授業準備ができる。
2	上野　公子　教　授	高齢社会の現状と課題について説明できる。
3	上野　公子　教　授	高齢社会の現状と課題について説明できる。
4	上野　公子　教　授	具体的事象（課題）に関する文献クリティークができる。
5	上野　公子　教　授	具体的事象（課題）に関する文献クリティークができる。
6	上野　公子　教　授	上記に関する発表と討議ができる。
7	上野　公子　教　授	具体的事象（課題）に関する文献クリティークができる。
8	上野　公子　教　授	具体的事象（課題）に関する文献クリティークができる。
9	上野　公子　教　授	上記に関する発表と討議ができる。
10	上野　公子　教　授	具体的事象（課題）に関する文献クリティークができる。
11	上野　公子　教　授	具体的事象（課題）に関する文献クリティークができる。
12	上野　公子　教　授	上記に関する発表と討議ができる。
13	上野　公子　教　授	高齢者の社会的および健康課題に関する研究の動向についてレポートを作成できる。
14	上野　公子　教　授	高齢者の社会的および健康課題に関する研究の動向についてレポートを作成できる。
15	上野　公子　教　授	上記発表と討議ができる。

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間		
	【事前学修】	関心領域の動機についてまとめておくこと。 必ず検討資料を作成し、授業に臨むこと。
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、参考書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。

教科書	特に定めない。
参考書	特に定めない。
成績評価の方法および基準	作成資料30%、プレゼンテーション及びディスカッション40%、課題レポート30%で評価する。
その他履修上の注意事項	担当教員と積極的にコンタクトをとること。 課題レポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP1が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。